

がんの予防・がんの早期発見に関する 指標と現況について

がん対策における進捗管理指標の策定と
計測システムの確立に関する研究班
研究代表者 若尾 文彦
(国立がん研究センターがん対策情報センター)

がん対策における進捗管理指標の策定と計測システムの確立に関する研究

代表：若尾文彦

1. 分野別施策（右班担当部分以外）を対象に協議会委員と専門家の総意により策定

2. 全体目標（療養生活の質の向上）の評価方法を確立

3. 既存の指標に関しては収集し公表

がん対策における緩和ケアの評価に関する研究

代表：加藤雅志

1. 緩和ケアの指標を協議会委員と専門家の総意により策定

2. 既存の緩和ケアの指標により測定、その動向を、質的、量的に検討

3. 患者・医師・看護師、他の医療者へのインタビュー

がん診療拠点病院におけるがん疼痛緩和に対する取り組みの評価と改善に関する評研

代表：細川豊史

- がん疼痛緩和の好事例収集により、疼痛緩和について一般化された政策提言を行う

分野別施策：4. がんの予防

5. がんの早期発見

代表者：敬称略

4. がんの予防－個別目標

- ・ 噸煙率については、平成34(2022)年度までに、禁煙希望者が禁煙することにより成人喫煙率を12%とすることと、未成年者の喫煙をなくすことを目標とする。さらに、受動喫煙については、行政機関及び医療機関は平成34(2022)年度までに受動喫煙の機会を有する者の割合を0%、職場については、事業者が「全面禁煙」又は「喫煙室を設けそれ以外を禁煙」のいざれかの措置を講じることにより、平成32(2020)年までに、受動喫煙の無い職場を実現することを目標とする。また、家庭、飲食店については、喫煙率の低下を前提に、受動喫煙の機会を有する者の割合を半減することにより、平成34(2022)年度までに家庭は3%、飲食店は15%とすることを目標とする。
- ・ また、感染に起因するがんへの対策を推進することにより、がんを予防することを目標とする。
- ・ さらに、生活習慣改善については、「ハイリスク飲酒者の減少」、「運動習慣者の増加」、「野菜と果物の摂取量の増加」、「塩分摂取量の減少」等を目標とする。

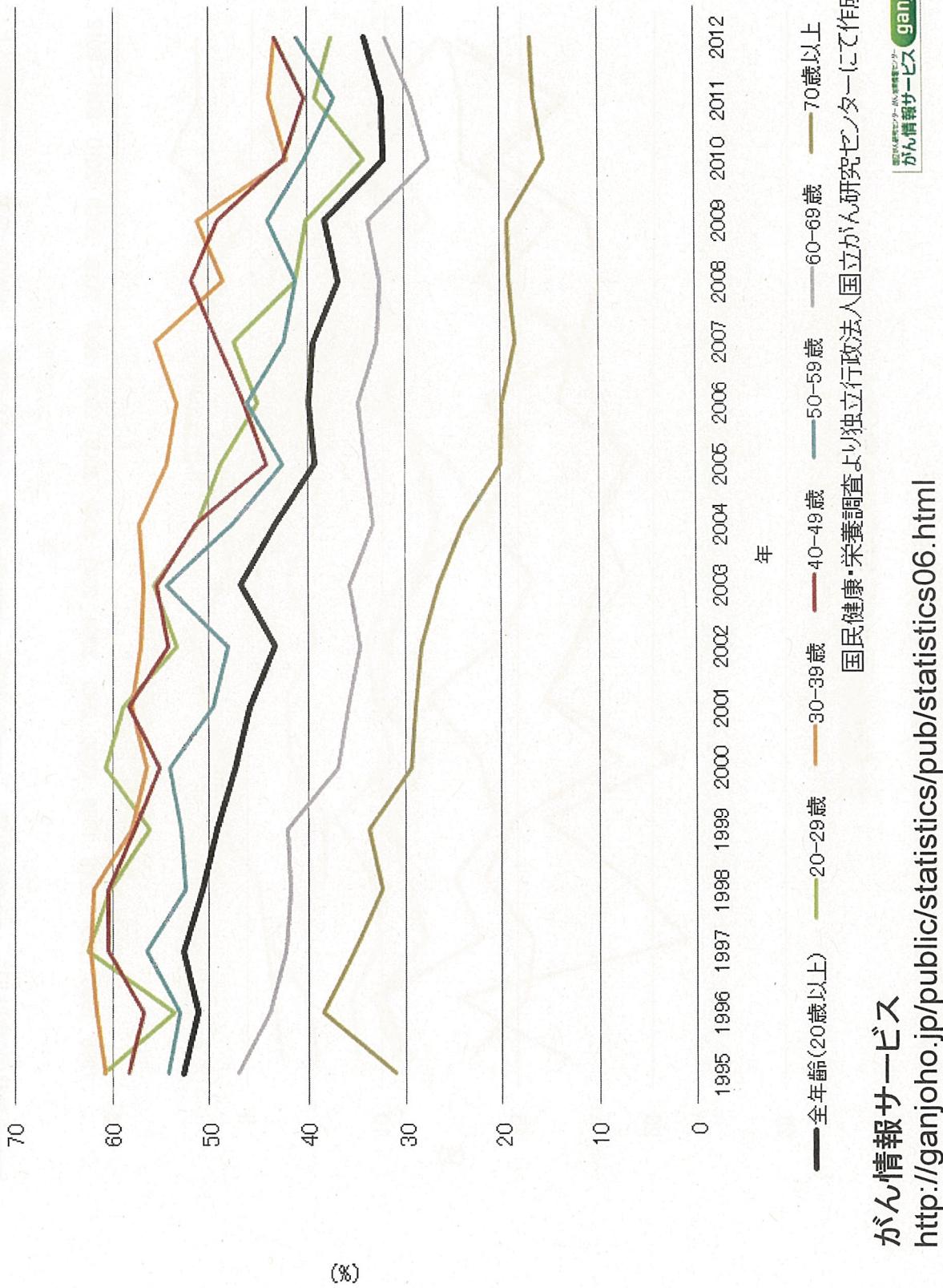
1.たばこ対策に関する進捗管理指標

指標1：成人喫煙率

データ：「国民健康・栄養調査」の生活習慣調査票
測定上の定義：満20歳以上の成人のうち、現在習慣的に喫煙している者（これまでにたばこを習慣的に吸っている（吸っていた）者）のうち、この1か月間に毎日又は時々たばこを吸つていると回答した者の割合

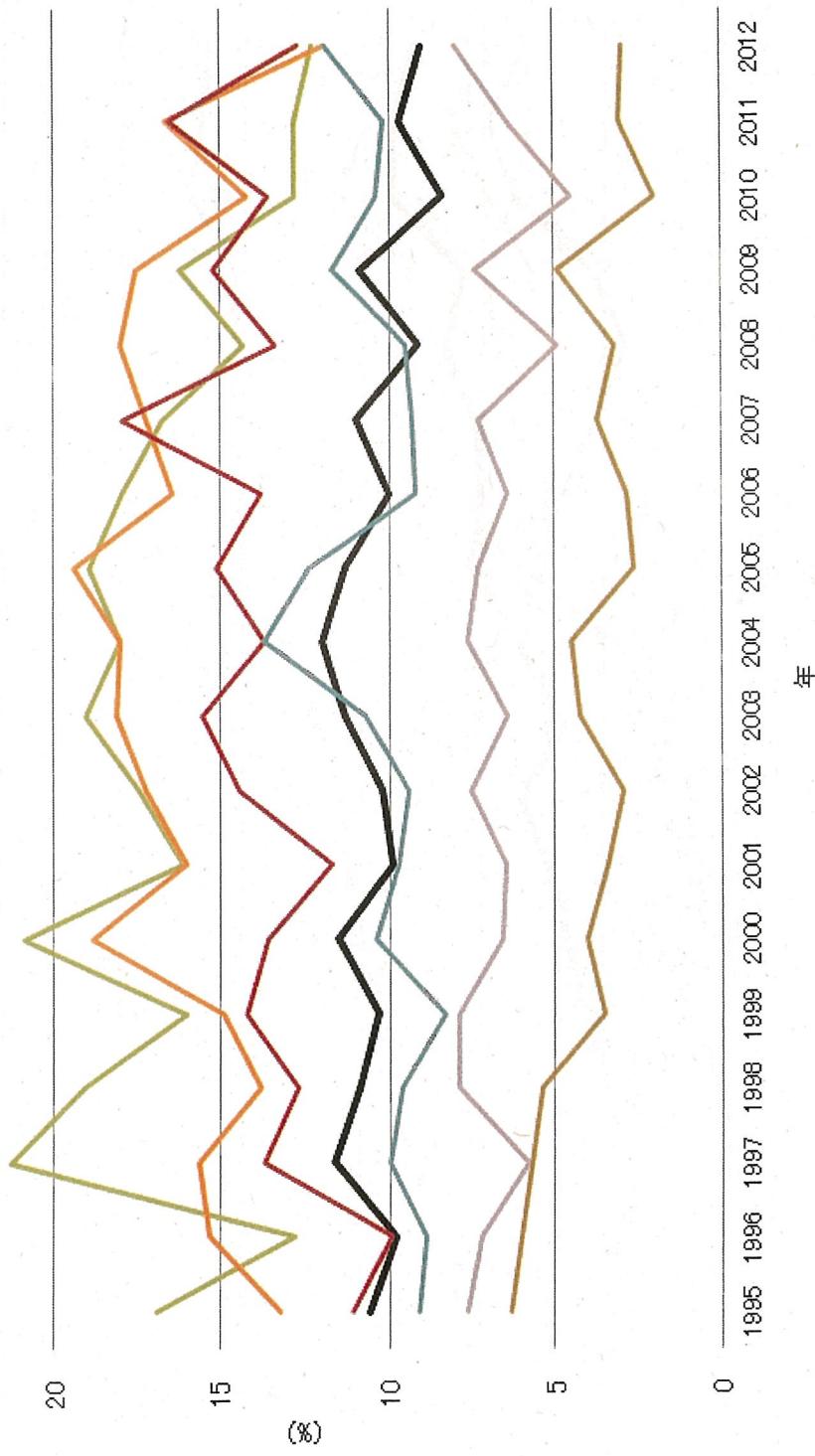
基本計画目標	2003年	2006年	2009年	2012年	備考
12%以下 (2022年)	27.7%	23.8%	23.4%	20.7%	1995年以降減少傾向
12%以下 (2022年)	46.8%	39.9%	38.2%	34.1%	1995年以降減少傾向、2010年以降は増加のきさし
12%以下 (2022年)	11.3%	10.0%	10.9%	9.0%	1995年以降40歳代で増加傾向、20歳代、30歳代では近年減少傾向

男性の成人喫煙率の推移



女性の成人喫煙率の推移

25



国民健康・栄養調査より独立行政法人国立がん研究センターにて作成
— 全年齢(20歳以上) — 20-29歳 — 30-39歳 — 40-49歳 — 50-59歳 — 60-69歳 — 70歳以上

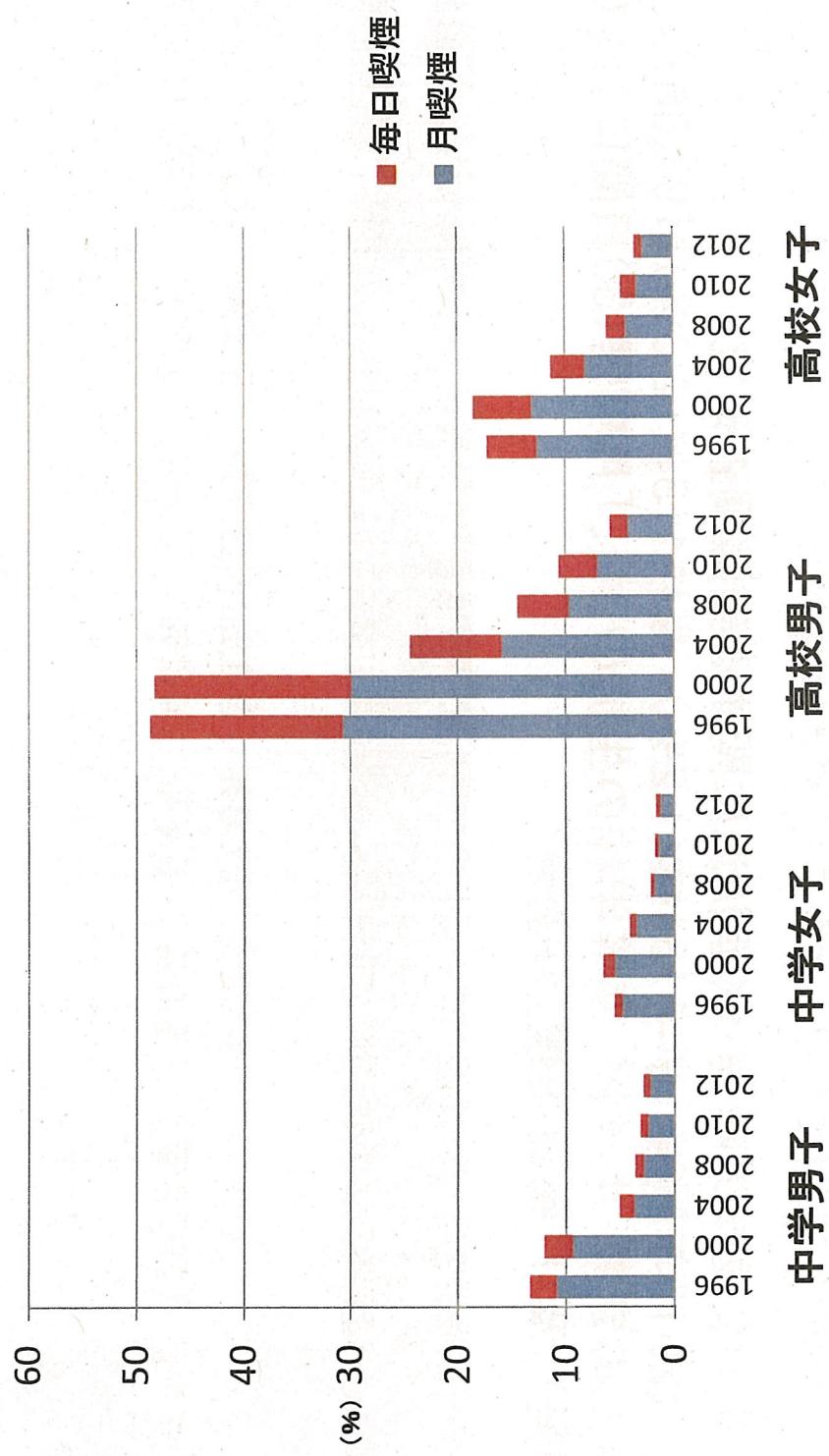
がん情報サービス
<http://ganjoho.jp/public/statistics/pub/statistics06.html>

1. たばこ対策に関する進捗管理指標 指標2：未成年者の喫煙率

データ：「未成年の喫煙・飲酒状況に関する実態調査研究」
(2010年調査 中学131校(1.2%)、高校113校(2.3%)計98,867人)
測定上の定義：中学校、高等学校の生徒のうち、「月喫煙(30日間に1日でも喫煙)」及び「毎日喫煙」の割合

基本計画目標	1996年	2000年	2004年	2008年	2010年	2012年	備考
中学 男子 (2022年)	0% 13.3%	12.0% 5.6%	5.1% 4.2%	3.7% 2.2%	3.2% 1.8%	2.9% 1.7%	減少傾向
高校 男子 (2022年)	0% 17.2%	48.3% 18.5%	24.4% 11.3%	14.4% 6.2%	10.6% 4.9%	5.9% 3.6%	減少傾向

中学生、高校生の喫煙率



月喫煙(30日間で1日でも喫煙)

1. たばこ対策に關する進捗管理指標 指標3：受動喫煙の機会を有する者の割合

データ：「国民健康・栄養調査」の生活習慣調査票

測定上の定義：受動喫煙とは、現在習慣的に喫煙している者以外がたばこの煙を吸う機会のことであり、成人の男女総数のうち、現在喫煙者以外の者が「この1か月間に、自分が吸っていたたばこの煙を吸う機会があつたか」という質問にに対しての回答（「ほぼ毎日」「週に数回程度」「月に1回程度」「全くなかつた」「行かなかつた」）をもとに評価

基本計画目標	2008年	2010年	2011年	備考
行政機関 (2022年)	0% 16.9%	—	7.0%	減少傾向
医療機関 (2022年)	0% 13.3%	—	5.9%	減少傾向
家庭 (2022年)	3% 13.9%	10.7%	9.3%	減少傾向
飲食店 (2022年)	15% 62.3%	50.1%	45.1%	減少傾向

1. たばこ対策に関する進捗管理指標 指標4：受動喫煙の無い職場の割合

データ：労働安全衛生特別調査における「労働者健康状況調査」「労働災害防止対策等重点調査」及び「職場における受動喫煙防止対策に係る調査」
測定上の定義：全国の全ての業種を含む事業所のうち、「受動喫煙防止対策（全面禁煙又は空間分煙）を講じている職場」の割合

基本計画目標	2002年	2007年	2011年	2012年	備考
受動喫煙の無い職場の実現（2020年）	—	46%	64% (職場における受動喫煙防止対策に係る調査)	—	受動喫煙防止対策が取り扱う職場は増加傾向
全面禁煙の割合（敷地内、建物内禁煙）	14.2%	24.4%	30.7%	51.3% (13.4%、37.9%)	52.8% (労働災害防止対策等重点調査) 23.7% (労働者健康状況調査) (労働者健康状況調査)

2. 感染症に起因するがんへの対策における進捗管理指標に関する進捗管理指標

指標	基本計画目標	現状	データ	備考
1 B型・C型肝炎ウイルス感染率	—	B型肝炎 初回献血者によるHBs抗原陽性率 約0.2% C型肝炎 初回献血者によるHCV抗体陽性率 16～10歳 0.13%、20～29歳0.21%、30～39歳0.77%、40～49歳1.28%、50～59歳1.80%、60～69歳3.38% B型・C型肝炎 無症候性キャリア(推定) 2.8 ～3.2万人	肝炎ウイルス感染状況・長期経過と予後調査及び治療導入対策に関する研究	高齢者で感染者が多い傾向にあり、若い世代ほど陽性率は減少傾向
2 B型・C型肝炎ウイルス抗体検査受検率	—	B型肝炎ウイルス検査受検率 57.4% (推定) C型肝炎ウイルス検査受検率 48.0% (推定)	肝炎検査受検状況実態把握事業報告書	検査を受けたこと認識していない者が多数存在
3 ヒトTリノバ好性ウイルス感染率(調査中)	—	推定約108万人	本邦におけるHTLV-1感染及び関連疾患の実態調査と総合対策	減少傾向
4 ヒトパピローマウイルスワクチン接種率(調査中)	—	—	—	—

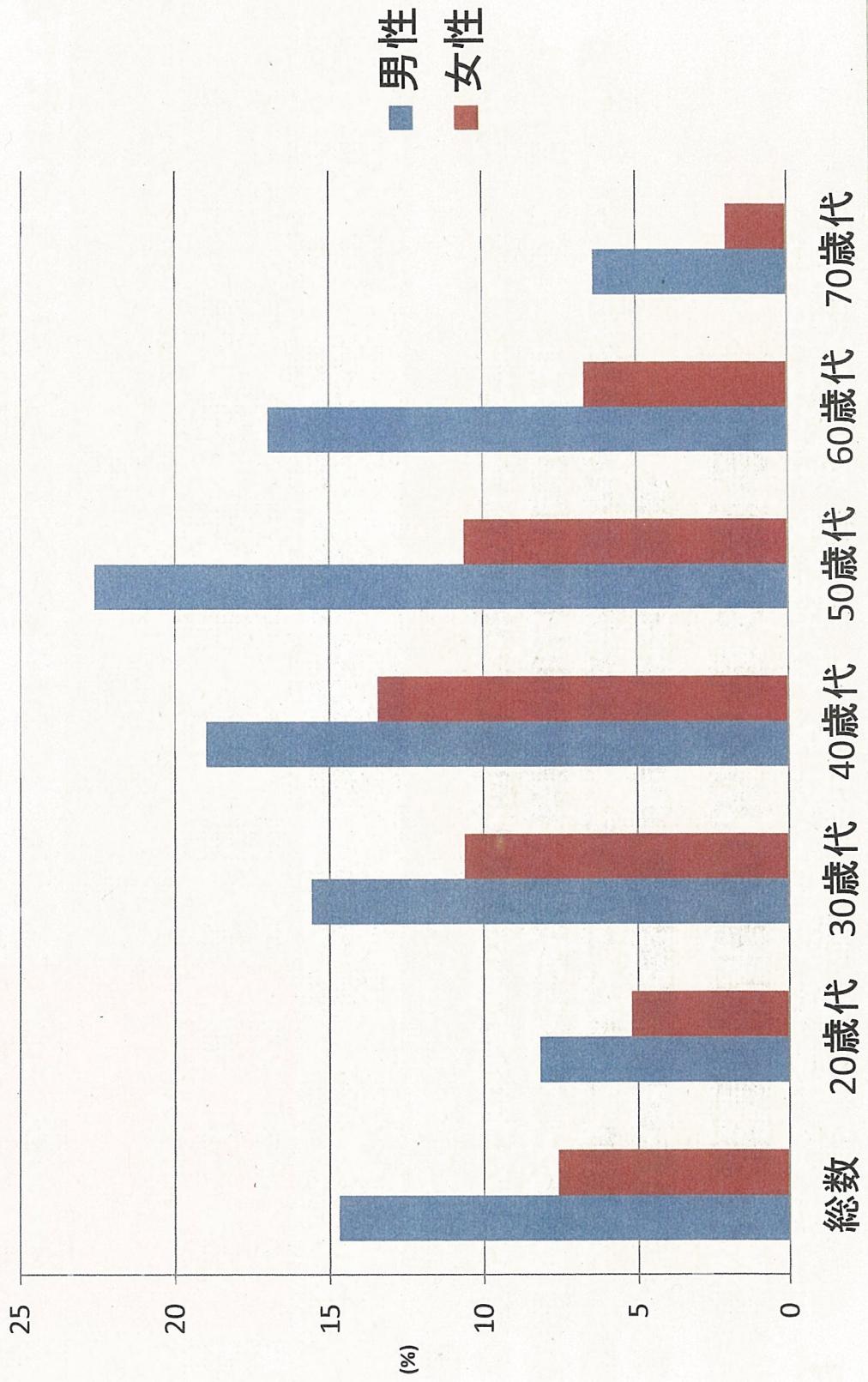
3. 生活習慣改善に関する進歩管理指標 目標1：ハイリスク飲酒者の割合

データ：「国民健康・栄養調査」の生活習慣調査票

測定上の定義：20歳以上の中、1日当たりの純アルコール摂取量が男性40g以上、女性20g以上の者の割合。清酒1合の純アルコール量が22gであることから、調査項目の「飲酒の頻度」と「飲酒の日の1日当たりの飲酒量」をもとに、概算。なお、1日5合以上の飲酒は、頻度にかかわらず、生活习惯病のリスクを高める量を飲酒しているとした。

健康日本21(第2次)目標		2010年	2012年	備考
男性	13% (2022年)	15.3%	14.7%	やや減少傾向
女性	6.4% (2022年)	7.5%	7.6%	ほぼ変化なし

2012年ハイリスク飲酒者の割合 (20歳以上、性・年齢階級別、全国補正值)



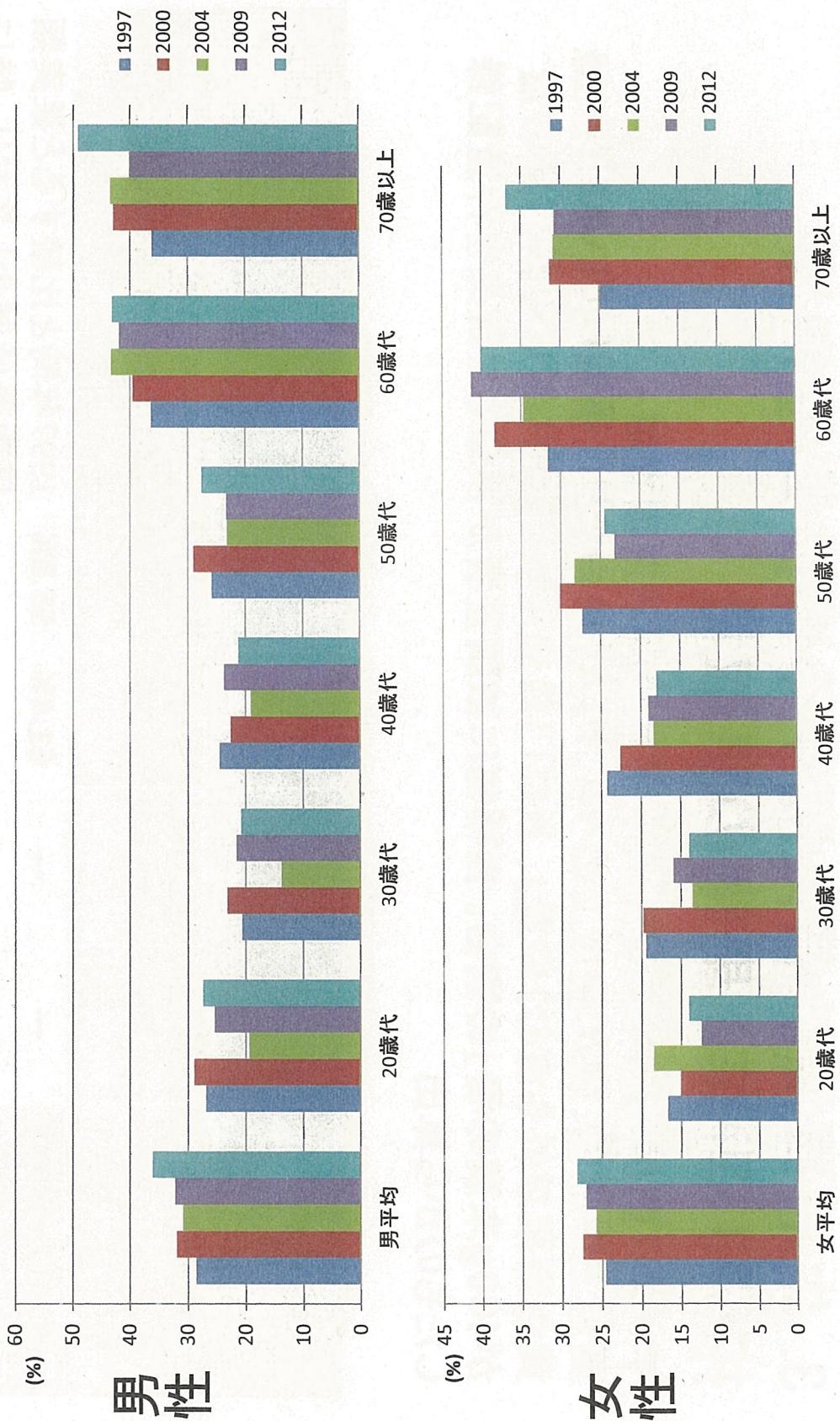
3. 生活習慣改善に関する進歩管理指標 目標2：運動習慣のある者の割合

データ：「国民健康・栄養調査」の身体状況調査票

測定上の定義：20歳以上のうち、身体状況調査表の問診において、「運動の実施頻度として週2日以上、持続時間として1回30分以上、継続期間として1年以上の運動習慣があると回答した者」の割合（運動の強さは運動習慣の判定に含まれない）。

健康日本21(第2次)目標		2010年	2011年	2012年	備考
男性	20～64歳	36%	26.3%	25.9%	36.1% (全体平均)
	65歳以上	58%	47.6%	47.4%	60歳未満の就労世代で運動習慣が低い 60歳以上の者の運動習慣は増加
女性	20～64歳	33%	22.9%	24.8%	28.2% (全体平均)
	65歳以上	48%	37.6%	36.2%	60歳未満の就労世代で運動習慣が低い 60歳以上の者の運動習慣は増加

運動習慣のある者の割合の推移 (20歳以上、性・年齢階級別、全国補正値)



3. 生活習慣改善に関する進歩管理指標 目標3：野菜と果物の摂取量

データ：「国民健康・栄養調査」の栄養摂取状況調査票

測定上の定義：満20歳以上の中、「1人1日当たりに摂取している野菜（緑黄色野菜以外も含む）の量」及び「1日当たりに摂取している果実類の量が100g未満の者」の割合。世帯毎に被調査者が摂取した食品を秤量記録したものから算出したもの

健康日本 21(第2次) 目標	2003年	2006年	2010 年	2012 年	備考
野 菜 類	平均値 350g (2022年)	293.4g	303.4g	281.7g	286.5g 1997年から変化がなく、どの年代においても350gには達していない
果 実 類	100g未満の 者の割合 30% (2022年)	—	—	—	61.4% 58.8% 1997年時と比較すると果実類摂取量は減少しており、特に20～40代において摂取量が少ない傾向がある

3. 生活習慣改善に関する進歩管理指標 指標4：食塩摂取量

データ：「国民健康・栄養調査」の栄養摂取状況調査票
測定上の定義：満20歳以上人口のうち、「1人1日当たりに摂取した食塩の量」。世帯毎に被調査者が摂取した食品を秤量記録したものから算出。

健康日本 21(第2次) 目標	2003年	2006年	2009年	2012年	備考
8g (2022年)	11.7g	11.2g	10.7g	10.4g	男性
	12.7g	12.2g	11.6g	11.3g	女性
	10.9g	10.5g	9.9g	9.6g	
					減少傾向

3. 生活習慣改善に関する進歩管理指標 目標5：適正体重を維持している者の割合

データ：「国民健康・栄養調査」の身体状況調査票

測定上の定義：適正体重を維持している者とは、BMIが18.5以上25未満となる体重を維持している者である。肥満者「BMI値25以上の者」の割合、及びやせの者「BMI18.5未満の者」の割合。BMIの算出にあたっては、身体状況調査において調査対象者を会場に集めて調査員（医師、保健師等）が計測した身長・体重の値を使用。

健康日本21 (第2次)目標	2003年	2008年	2010年	2012年	備考
肥満者 20～60歳 28%	男性 29.5%	男性 29.6%	男性 31.2%	男性 29.6%	男性の肥満者は、 「ほぼ横ばい傾向」、 40～60歳代女性 の肥満者は、やや 減少傾向
40～60歳 19% (2022年)	女性 25.0%	女性 21.7%	女性 22.2%	女性 20.5%	
やせ 20歳代 20% (2022年)	女性 23.9%	女性 23.3%	女性 24.4%	女性 21.8%	「ほぼ横ばい傾向」

がん対策推進基本計画－5. がんの早期発見 個別目標

- 5年以内に、全ての市町村が、精度管理・事業評価を実施するとともに、科学的根拠に基づくがん検診を実施することを目標とする。
- がん検診の受診率については、5年以内に50%（胃、肺、大腸は当面40%）を達成することを目標とする。目標値については、中間評価を踏まえ必要な見直しを行う。また、健康増進法に基づくがん検診では、年齢制限の上限を設けず、ある一定年齢以上の者を対象としているが、受診率の算定に当たっては、海外諸国との比較等も踏まえ、40歳から69歳（子宮頸がんは20歳から69歳）までを対象とする。
- がん検診の項目や方法については、国内外の知見を収集して検討し、科学的根拠のあるがん検診の実施を目標とする。

4. がん検診に関する進捗管理指標

1) 市区町村における科学的根拠に基づくがん検診の実施状況

指標1a: 指針に基づかないがん検診を実施している市区町村の割合

指標1b: 指針に基づくがん検診を実施している市区町村の割合

データ：市区町村におけるがん検診の実施状況調査（厚生労働省）

測定上の定義：

指標1a: 指針に基づかないがん検診を実施している市区町村の割合

「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」に基づいたがん検診以外を実施している市区町村の割合とする。推奨される検診を行っているかどうかはこの算定には考慮しない。

指標1b: 指針に基づくがん検診を実施している市区町村の割合

指針に基づくがん検診を実施している市区町村の割合とする。

調査は平成20年から毎年行われ、対象は、全市区町村及び23特別区である。各都道府県を通じ管内市区町村に对しがん検診の実施状況（1月1日時点）について調査された（回答率は、99.6～100%）。調査は毎年4～5月に実施され、調査前年度のがん検診事業（調査年の1月1日現在）のがん検診の実施状況について回答することとなつていて。ここでは、調査対象年度（平成25年の調査報告書は前年度24年として記載）を用いて記載する。

4. がん検診に関する進歩管理指標

1) 市区町村における科学的根拠に基づくがん検診の実施状況
指標1a：指針に基づかないがん検診を実施している市区町村の割合

指針以外のがん種のがん検診実施割合

指針で示しているがん種のみの検診実施	目標	平成19年 (回答数1,822)	平成21年 (回答数1,783)	平成24年 (回答数 1,735)	備考
指針以外のがん種の検診を実施	—	1146 (62.9%)	1238 (69.4%)	1341 (77.3%)	増加傾向
指針以外のがん種のみの検診実施	672 (36.9%)	527 (29.6%)	388 (22.4%)		
検診項目(複数回答)					
前立腺がんの検診(PSA検査)	900 (49.4%)	1205 (67.6%)	1300 (74.9%)		
前立腺がんの検診(PSA検査以外)	—	—	8 (0.5%)		
肝臓がんの検診(超音波検査)	31 (1.7%)	55 (3.1%)	127 (7.3%)		
肝臓がんの検診(超音波検査以外)	—	—	16 (0.9%)		
卵巣がんの検診(超音波検査)	—	—	29 (1.6%)		
卵巣がんの検診(超音波検査以外)	—	—	66 (3.8%)		
甲状腺がんの検診(超音波検査)	—	—	1 (0.1%)		
甲状腺がんの検診(超音波検査以外)	5 (0.3%)	10 (0.6%)	27 (1.6%)		
口腔がんの検診	—	—	36 (2.1%)		
咽頭・喉頭がんの検診	—	25 (1.4%)	44 (2.5%)		
その他のがん種の検診	—	—	19 (1.1%)		
			36 (2.1%)		

* 集計結果には、未回答・その他を含むため合計が100%とならない。

4. がん検診に関する進歩管理指標

1) 市区町村における科学的根拠に基づくがん検診の実施状況
指標1a：指針に基づかないがん検診を実施している市区町村の割合

指針以外のがん検診項目(方法)によるがん検診実施割合

	目標	平成19年 (実施数)	平成21年 (実施数)	平成24年 (実施数)	備考
胃がん検診	—	(1,822) 53(2.9%) 21(1.2%) —	(1,782) 234(13.1%) 53(3.0%) 18(1.0%)	(1,734) 318(18.3%) 84(4.8%) 50(2.9%)	
胃内視鏡検査 ペプシノゲン法 ヘリコバクター・ピロリ抗体検査	—				増加傾向
肺がん検診	—	(1,821) 84(4.6%)	(1,720) 150(8.7%)	(1,707) 184(10.8%)	増加傾向
胸部CT	—	(1,822) — — —	(1,720) 32(1.8%) 30(1.7%) 5(0.3%)	(1,735) 35(2.0%) 26(1.5%) 5(0.3%)	ほぼ横ばい
大腸がん検診	—				
大腸内視鏡検査	—				
S状結腸鏡検査	—				
注腸X線検査	—				
乳房がん検診	—	(1,822) 206(11.3%)	(1,783) 536(30.1%)	(1,735) 547(31.5%)	3割以上が実施
超音波検査(エコー)	—				
子宮頸がん検診	—	(1,822) —	(1,781) 26(1.5%)	(1,729) 59(3.4%)	やや増加
HPV検査	—				

4. がん検診に関する進捗管理指標

1) 市区町村における科学的根拠に基づくがん検診の実施状況
指標10：指針に基づくがん検診を実施している市区町村の割合

	目標	平成19年 (実施数)	平成21年 (実施数)	平成24年 (実施数)	備考
胃がん検診		(1,822)	(1,782)	(1,734)	
問診	—	1782(97.8%)	1768(99.2%)	1722(99.3%)	ほぼ全国で実施
胃部X線検査			1767(99.2%)	1719(99.1%)	
肺がん検診		(1,821)	(1,720)	(1,707)	
問診	—	1682(92.3%)	1671(97.2%)	1647(96.5%)	ほぼ横ばい
胸部X線検査	—		1671(97.2%)	1638(96.0%)	
喀痰細胞診			1495(86.9%)	1465(85.8%)	
大腸がん検診		(1,822)	(1,781)	(1,735)	
問診	—	1782(97.8%)	1675(94.0%)	1667(96.1%)	ほぼ全国で実施
便潜血検査	—		1773(99.6%)	1733(99.9%)	
乳がん検診		(1,822)	(1,783)	(1,735)	
問診	—	1601(87.9%)	1774(99.5%)	1411(81.3%)	ほぼ全国で実施
視触診	—		1520(85.0%)	1502(86.6%)	
乳房X線検査(マンモグラフィ)			1750(98.1%)	1718(99.0%)	
子宮頸がん		(1,822)	(1,781)	(1,729)	
問診	—	1711(93.9%)	1778(99.8%)	1729(99.7%)	
視診・内診	—		1529(85.9%)	1647(94.9%)	9割以上で実施
細胞診(従来法)			1665(94.2%)	1576(90.8%)	
細胞診(液状検体法)			38(2.2%)	288(16.6%)	

4. がん検診に関する進捗管理指標 2) 市区町村におけるがん検診の精度実施状況 指標2:「事業評価のためのチェックリスト」を実施している市区町村の割合（ 技術・体制的指標）

データ：国立がん研究センターがん対策情報センターによる調査結果 「
市区町村におけるがん検診チェックリストの使用に関する実態調査^{注1)}」
測定上の定義：平成20年の報告書「今後の我が国におけるがん検診事業評
価の在り方にについて」で示された「事業評価のためのチェックリスト」の
実施割合。調査対象は、健康増進事業に基づく集団検診^{注2)}を「がん予防
重点健康教育及びがん検診実施のための指針」（厚生労働省、平成20年）
に基づいた検査方法で行っている市区町村である。平成25年度の調査では
、1,704市区町村のうち1,429市区町村から回答を得た（回収率83.9%）。

注1) 厚労省研究班(斎藤班)との共同実施
注2) 健康増進事業のうち、もう一方の個別検診については今後指標が作成される

4. がん検診に関する進捗管理指標

2) 市区町村におけるがん検診の精度実施状況 指標2：「事業評価のためのチェックリスト」を実施している市区町村 の割合（技術・体制的指標）

平成25年度の事業評価のためのチェックリスト(厚生労働省がん検診事業の評価に関する委員会、平成20年)に基づく全国の実施率(%) (回答自治体数:1,429)

	胃がん	大腸がん	肺がん	乳がん	子宮がん
検診対象者 対象者の網羅的な名簿を住民台帳などに基づいて作成しているか(Q1-1)	88.3↑	88.3↑	88.1↑	88.5↑	88.7↑
受診者の情報管理					
個人別の受診(記録)台帳を把握しているか(Q2-2-1) 受診者数を性別・年齢5歳階級別に集計しているか(Q2-2-2) 受診者数を機関別に集計しているか(Q2-2-3) 受診者数を過去の受診歴別に集計しているか(Q2-2-4) 過去3年間の受診歴を記録しているか(Q2-3)	92.5 95.1↑ 95.4↑ 78.8↑ 92.9↑	91.7 94.7↑ 95.3↑ 78.4↑ 92.4↑	91.9 94.9↑ 95.6↑ 78.9↑ 92.5↑	92.4 94.9↑ 94.0↑ 79.5↑ 92.8↑	91.8 94.7↑ 93.6↑ 79.3↑ 92.4↑
要精検率の把握					
要精検率を性別・年齢5歳階級別に集計しているか(Q3-1-1) 要精検率を機関別に集計しているか(Q3-1-2) 要精検率を過去の受診歴別に集計しているか(Q3-1-3)	77.7 79.7 55.4↑	77.7 78.3 56.2↑	77.9 79.8↑ 56.4↑	77.7 76.4 55.5↑	76.6 74.8 56.0↑
精検受診の有無の把握と受診勧奨					
精検受診率を性別・年齢5歳階級別に集計しているか(Q4-1-1) 精検受診率を機関別に集計しているか(Q4-1-2) 精検受診率を受診歴別に集計しているか(Q4-1-3) 精検未受診者に精検の受診勧奨を行っているか(Q4-3)	74.2 74.8 53.5 84.7↑	74.3 73.8 54.0↑ 84.0↑	74.2 74.7 54.2↑ 85.1↑	74.1 71.0 53.6↑ 84.9↑	73.1 70.0 53.4↑ 85.3↑
精密検査結果の把握					
精密検査結果の把握過去3年間の精密検査結果を記録しているか(Q5-2) がん発見率を性別・年齢5歳階級別に集計しているか(Q6-1-1) がん発見率を機関別に集計しているか(Q6-1-2) がん発見率を受診歴別に集計しているか(Q6-1-3) 陽性反応中度を性別・年齢5歳階級別に集計をしているか(Q8-1-2) 陽性反応中度を検診機関別に集計しているか(Q8-1-2) 陽性反応中度を受診歴別に集計しているか(Q8-1-3)	82.9 64.8 66.7 48.8↑ 46.7↑ 49.0↑ 37.4↑	81.8 65.0 65.7 49.2↑ 46.7↑ 47.7↑ 37.5↑	82.5↑ 64.7 66.1 49.0↑ 46.4↑ 48.3↑ 37.5↑	82.7↑ 65.4 64.5 48.8↑ 45.8↑ 46.2↑ 36.2↑	82.1↑ 65.5 63.6 49.5↑ 46.2↑ 45.5↑ 36.9↑
検診機関の委託					
委託検診機関の選定に際し、仕様書を作成・提出させてそれを基に判断しているか(Q10-1) 仕様書に必須の精度管理項目を明記させているか(Q10-1-1)	59.2 43.9↑	56.5↑ 42.2↑	58.3↑ 43.6↑	57.6↑ 42.6↑	57.6↑ 43.7↑

↑ 実施割合が増加した項目

4. がん検診に関する進歩管理指標
- 2) 市区町村におけるがん検診の精度実施状況
指標3: 精検受診率、未把握率、精検未受診率、要精検率、がん発見率、陽性反応適中度(プロセス指標)

データ：地域保健・健康増進事業報告

測定上の定義：対象となる検診は、胃がん（胃X線検査）、肺がん（胸部X線と喀痰検査（高危険群のみ）の併用）、大腸がん（便潜血検査）、乳がん（視触診とマンモグラフィの併用）、子宮頸がん（細胞検診）。

精検受診率(%)	精検受診者数(=要精検者－未把握者) / 要精検者 * 100
未把握率(%)	精検未把握者数 / 要精検者数 * 100
精検未受診率(%)	精検未受診者数 / 要精検者数 * 100
(精検未把握率)(%)	(未把握者 + 未受診者) / 要精検者数 * 100
要精検率(%)	要精検者数 / 受診者数 * 100
がん発見率(%)	(精密検査で)がんであった者 / 受診者数 * 100
陽性反応適中度(PPV)(%)	(精密検査で)がんであった者 / 要精検者数 * 100

各がん検診に関する事業評価プロセス指標とそれぞれの許容値及び目標値(案)

	胃がん	肺がん	大腸がん	乳がん	子宮がん
精検受診率	許容値 目標値 90%以上	70%以上 90%以上	70%以上 90%以上	80%以上 90%以上	70%以上 90%以上
未把握率	許容値 目標値 10%以下	10%以下 10%以下	10%以下 10%以下	10%以下 10%以下	10%以下 10%以下
精検未受診率	許容値 目標値 5%以下	5%以下 5%以下	5%以下 5%以下	5%以下 5%以下	5%以下 5%以下
精検未把握率	許容値 目標値 30%以下	20%以下 20%以下	20%以下 30%以下	10%以下 20%以下	10%以下 20%以下
要精検率	許容値 目標値 11.0%以下	10%以下 3.0%以下	10%以下 7.0%以下	10%以下 11.0%以下	10%以下 11.0%以下
がん発見率	許容値 目標値 0.11%以上	0.03%以上 0.03%以上	0.13%以上 0.23%以上	0.23%以上 0.23%以上	0.05%以上 0.05%以上
陽性反応適中度	許容値 目標値 1.0%以上	1.3%以上 1.9%以上	1.3%以上 2.5%以上	1.9%以上 2.5%以上	4.0%以上 4.0%以上

胃がん検診（胃X線検査、全国値）

	目標値	H20年度 検診	H21年度 検診	H22年度 検診	備考
受診者数	-	3,877,829	3,794,488	3,874,128	
精検受診率	90%以上	-	80.1%	81.1%	[ほ]ぼ横[ば]い
未把握率	5%以下	-	9.9%	9.0%	[ほ]ぼ横[ば]い
精検未受診率	5%以下	-	10.0%	9.9%	[ほ]ぼ横[ば]い
精検未受診・未把握率	10%以下	-	19.9%	18.9%	許容値(30%以下)は達成
要精検率	-	9.93%	9.51%	9.42%	許容値(11.0%以下)は達成、その後[ほ]ぼ横[ば]い、 許容値(0.11%以上)は達成
がん発見率	-	0.17%	0.17%	0.17%	
陽性反応適中度	-	1.67%	1.76%	1.86%	許容値(1.0%以上)は達成

肺がん(胸部X線と喀痰検査(高危険群のみ)、全国値)

	目標値	H20年度 検診	H21年度 検診	H22年度 検診注5	備考
受診者数	-	6,680,080	6,680,014	7,059,318	
精検受診率	90%以上	-	75.9%	77.7%	やや増加
未把握率	5%以下	-	13.5%	13.4%	[ほ]ぼ横[ば]い
精検未受診率	5%以下	-	10.6%	8.9%	やや低下
精検未受診・未把握率	10%以下	-	24.1%	22.3%	やや低下
要精検率	-	2.93%	2.90%	2.82%	[ほ]ぼ横[ば]い
がん発見率	-	0.06%	0.06%	0.06%	
陽性反応適中度	-	2.04%	2.00%	2.16%	許容値(1.3%以上)は達成

大腸がん(便潜血検査、全国値)

	目標値	H20年度 検診	H21年度 検診	H22年度 検診	備考
受診者数	-	6,405,548	6,499,000	6,975,281	
精検受診率	90%以上	-	62.9%	63.6%	やや増加
未把握率	5%以下	-	18.6%	19.0%	ほぼ横ばい
精検未受診率	5%以下	-	18.5%	17.4%	やや減少
精検未受診・未把握率	10%以下	-	37.1%	36.4%	ほぼ横ばい
要精検率	-	7.20%	7.40%	7.25%	許容値(7.0%以下)は達成
がん発見率	-	0.21%	0.22%	0.23%	ほぼ横ばい
陽性反応適中度	-	2.95%	2.96%	3.16%	許容値(1.9%以上)は達成

乳がん(視触診とマンモグラフィの併用、全国値)

	目標値	H20年度 検診	H21年度 検診	H22年度 検診	備考
受診者数	-	1,742,615	2,502,080	2,541,993	
精検受診率	90%以上	-	82.3%	83.5%	許容値(80%以上)は達成
未把握率	5%以下	-	11.2%	10.3%	やや低下
精検未受診率	5%以下	-	6.5%	6.3%	ほぼ横ばい
精検未受診・未把握率	10%以下	-	17.7%	16.5%	やや低下
要精検率	-	8.64%	8.82%	8.57%	許容値(11.0%以下)は達成
がん発見率	-	0.32%	0.30%	0.32%	許容値(0.23%以上)は達成
陽性反応適中度	-	3.66%	3.37%	3.72%	許容値(2.5%以上)は達成

子宮頸がん(細胞診、全国値)

	目標値	H20年度 検診	H21年度 検診	H22年度 検診	備考
受診者数	-	3,516,610	4,275,409	4,666,826	
精検受診率	90%以上	-	64.2%	66.2%	やや増加
未把握率	5%以下	-	20.3%	19.9%	ほぼ横ばい
精検未受診率	5%以下	-	15.4%	13.9%	やや低下
精検未受診・未把握率	10%以下	-	35.7%	33.8%	やや低下
要精検率	-	1.19%	1.42%	1.63%	やや増加
がん発見率	-	0.07%	0.08%	0.08%	許容値(0.005%以上)は達成
陽性反応適中度	-	5.80%	5.32%	4.93%	許容値(4.0%以上)は達成

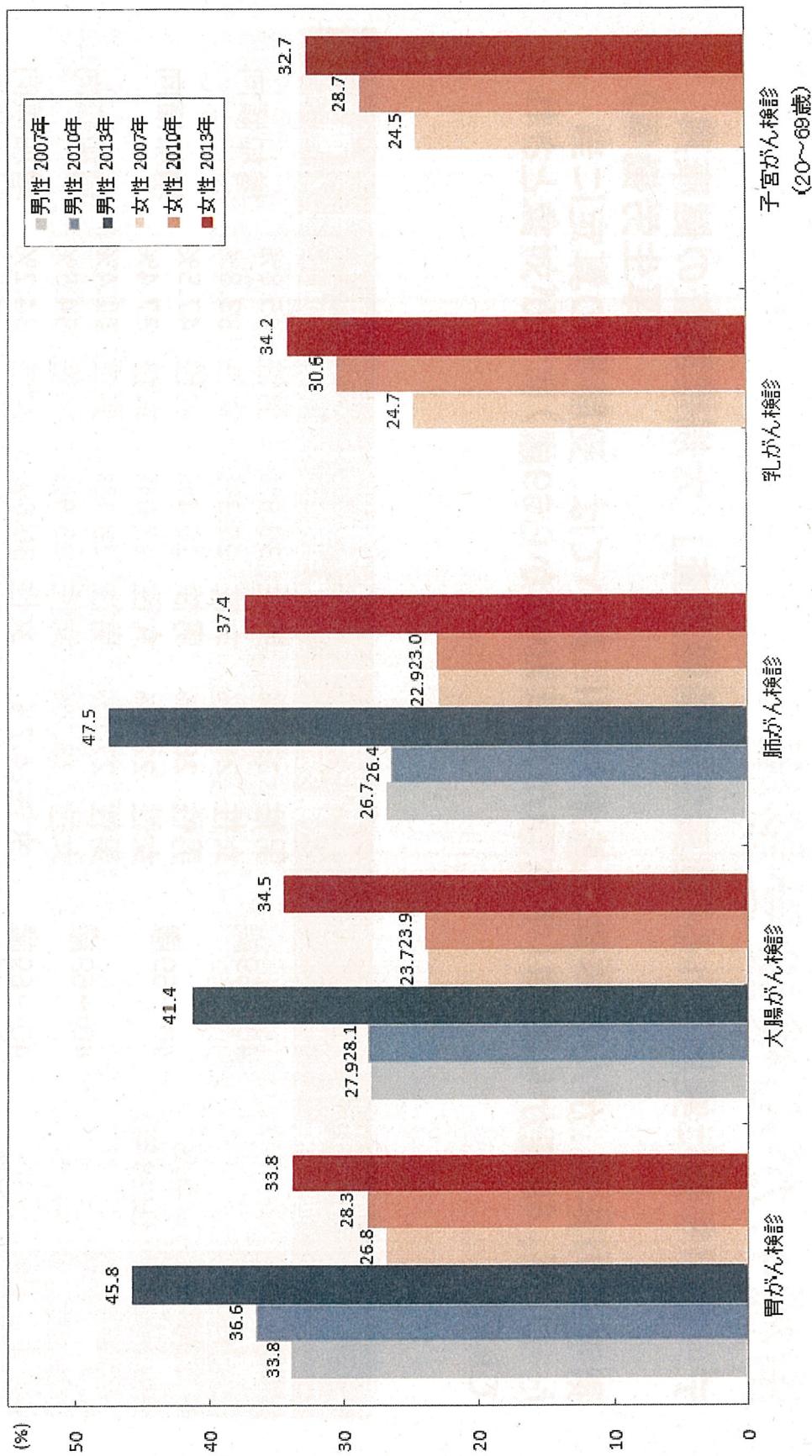
4. がん検診に関する進歩管理指標 指標4：がん検診受診率

データ：3年毎に実施される「国民生活基礎調査」 大規模調査の健康票（厚生労働省）
測定上の定義：がん対策推進基本計画においては、受診率の算定に当たっては、40歳から69歳（子宮頸がんは20歳から69歳）までが対象とされている。

基本計 画目標	H19年 (第8回)	H22年 (第9回)		H25年 (第10回)		備考
		男性	女性	男性	女性	
胃がん 40% (H28年)	40～69歳	男性 33.8%	女性 26.8%	男性 36.6%	女性 28.3%	男性 45.8% 女性 33.8% 増加傾向
	40～69歳	男性 26.7%	女性 22.9%	男性 26.4%	女性 23.0%	男性 47.5% 女性 37.4% 増加傾向
肺がん 50% (H28年)	40～69歳	男性 27.9%	女性 23.7%	男性 28.1%	女性 23.9%	男性 41.4% 女性 34.5% 増加傾向
	40～69歳	女性 24.7%	女性 24.5%	女性 30.6%	女性 28.7%	女性 32.7% 増加傾向
大腸がん						
乳がん						
子宮(頸) がん						

男女別がん検診受診率(40～69歳)の推移

*国民生活基礎調査より国立がん研究センターがん検診センターにて作成。いずれも過去1年の受診有無。



調査方法の相違点

(1)がん検診(種別)の具体的な検査方法(検査方法の記述は原文のまま)

2007年	胃がん検診	バリウムによるレントゲン撮影や内視鏡による撮影など
	大腸がん検診	便潜血反応検査(検便)など
	肺がん検診	胸の単純X線撮影(結核検診と同一)や喀痰検査など
	乳がん検診	記述なし
	子宮がん検診	記述なし
2010年、 2013年	胃がん検診	バリウムによるレントゲン撮影や内視鏡(胃カメラ、ファイバースコープ)による撮影など
	大腸がん検診	便潜血反応検査(検便)など
	肺がん検診	胸のレントゲン撮影や喀痰(かくたん)検査など
	乳がん検診	マンモグラフィ撮影や乳房超音波(エコー)検査など
	子宮(頸)がん検診	子宮の細胞診検査など

(2)回答方法および調査票の回収方法

回答方法	調査票の回収方法
2007年、 2010年	受診したがん検診(種別)を回答する形式 (あてはまるものすべてを回答)
2013年	がん検診(種別)ごとに「受けた」、「受けなかつた」を回答する形式

がん情報サービス <http://ganjoho.jp/public/statistics/pub/kenshin.html>



参考資料（内閣府「世論調査」の結果）

	平成19年9月		平成21年9月	
胃がん	男性 40.5%	女性 32.8%	男性 42.3%	女性 32.9%
肺がん	男性 45.6%	女性 37.0%	男性 44.7%	女性 40.1%
大腸がん	男性 35.1%	女性 32.5%	男性 35.3%	女性 31.3%
乳がん	女性 37.4%		女性 35.7%	
子宮がん	女性 39.0%		女性 37.2%	

* 全国約3千人を調査対象とし、調査員による個別面接聴取方式により実施。